

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名 言葉を選ぼう もっと伝わる表現を目ざして

2 単元について



そのような現状であるため、主として中学校学習指導要領国語科第3学年の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の「(1)イ(ア)時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解するとともに、敬語を社会生活の中で適切に使うこと。」の内容を踏まえ、本単元を設定した。近年、語彙不足がたびたび指摘されている。自分たちにとって都合のよい言葉、便利な言葉ばかりの使用頻度が高く、ごく限られた言葉しか使えない生徒が多い。そのため、言葉を通じて、きめ細やかに感情表現をしたり、的確に説明したりできない場合もある。相手を意識して、わかりやすく伝えられるようになるために、中学3年生とこの時期に語感を磨き、語彙を豊かにするための学習を行うことには意義があると考えます。

指導にあたっては、自らの言語生活を振り返り、自分自身が誤った言葉の使い方を行っていることや、相手に伝わりにくい言葉を日常的に使っていることに気付かせることから始めたい。それを踏まえ、どのような言葉が相手に伝わりにくいのか、どうすれば相手にわかりやすく伝えることができるのかを考えさせたい。また、文化庁の「国語に関する世論調査」は毎年行われている言語意識調査であり、世代による言葉づかいの違いについて、興味深いデータが多角的に提示されている。そのようなデータを利用することで、生徒の学習意欲を高め、言葉と真摯に向き合えるようにしたい。

【改善】言葉への興味を持つだけでなく、学校図書館やインターネットの活用を効果的に計画に組み込み「言葉への識見を高めようとする」ことを目標とする。

3 単元の目標

- (1) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて、考えを深め、言葉への識見を高めようとする。
- (2) 誤って使いがちな言葉をわかりやすく伝えるために、相手意識をもって、説得力のある文章を書くことができる。
- (3) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解することができる。

4 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 書く能力	ウ 言語についての知識・理解・技能
①時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて、考えを深め、言葉への識見を高めようとしている。	①誤って使いがちな言葉をわかりやすく伝えるために、相手意識をもって、説得力のある文章を書いている。	①時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解している。

5 指導と評価の計画（2時間）

時間	学習活動	評価規準	評価方法
1	・自分自身の言語生活を振り返ったり、学校図書館やインターネットを活用して調べたりして、世代間で使い方が異なる言葉や若い世代でしか伝わらない言葉を探す。	アー①	ワークシート 観察
2 本時	・人によって伝わり方が異なる言葉について、わかりやすく説明する文章を書く。	イー① ウー①	ワークシート 観察

6 本時の学習

(1) 本時の目標

人によって伝わり方が違う言葉の使い方について、わかりやすく説明する文章を書くことができる。

(2) 「全員参加のわかる授業づくり」に向けた指導の工夫

- ・班や全体で意見を交流する機会を設ける。
- ・例文を示したり、形式を提示したりして、説明を書く抵抗感を減らすようにする。

(3) 準備

プロジェクター、PC、ワークシート、付箋

(4) 展開

	学習内容	○学習活動 ◇評価【評価方法】→《生徒への支援》	指導上の留意点
導 入	1 人によって伝わり方が違う言葉があることを確認する。	○「文化庁 ことば食堂」の例から、誤用の多い表現があることを知る。	・自分自身が誤って使用している言葉があることに気付かせる。
	2 学習のめあてを確認する。	○教科書のリード文を読み、本時の学習のめあてを確認する。	
学習のめあて 人によって伝わり方が違う言葉をわかりやすく説明することができる			
展 開	3 言葉の意味の変化や、人によって伝わらない言葉の例を確認する。	○言葉の意味の変化について、古語を例に確認する。 ○若い世代の人だけにしか伝わらない言葉について、LINEで使われる表現を例に確認する。	・時代によって言葉の意味が変化していることや、自分自身が伝わりにくい言葉を使っていることに気付かせる。
	4 人によって伝わり方が異なる言葉を挙げる。	○世代間で意味や使い方が異なる言葉や、若い世代の人たちだけが使っていると思われる言葉を挙げる。	・あらかじめ調べた言葉をグループ分けして、いろいろな視点から取り上げられるようにする。
<p>【改善】 学習内容4の活動の際に、生徒が取り上げる言葉の例が偏らないようにし、あらかじめ調べた言葉を大きく3つのグループに分けて提示するようにする。また、めあてに即してわかりやすい説明の文章を書くためのポイントをおさえる。</p>			・言葉の例をいくつか紹介する。

<p>5 言葉を説明する文章を書く。</p>	<p>○4で挙げた言葉について、その言葉を知らない人にもわかりやすく伝えるためにふさわしい表現を考え、200字程度で書く。</p> <p>◇挙げた言葉について、その言葉を知らない人にもわかるように、200字程度で説明している。 (イー①、ウー①) 【観察・ワークシート】</p> <div data-bbox="475 517 1099 734" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>《生徒への支援》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き方の例を示し、同じような文章の構成や展開で書かせる。 ・あらかじめ型の決まったワークシートを準備しておく。 </div>	
<p>6 書いたことを班で共有する。</p>	<p>○完成した文章を班で読み合い、説得力がある文章になっているか評価し、必要であれば、修正点を伝える。</p>	<p>・付箋を使用し、活発に意見の交換ができるようにする。</p>
<p>7 全体で共有する。</p>	<p>○書いた文章を発表する。</p>	<p>・机間指導の際によく書いている生徒を確認しておき、取り上げる。</p>
<p>8 本時のまとめ</p> <p>ま と め</p>	<p>○説得力がある文章にするために必要なことは何か、意見を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手意識をもち ・場に即した言葉の使用 <div data-bbox="475 1368 1086 1473" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【改善】めあてに正対したまとめを全員が自分の言葉でアウトプットする場面を設ける。</p> </div> <p>○学んだことをペアで確認する。</p>	<p>・相手に伝わる表現をするためには、相手意識をもち、場に即した言葉を使うことが大切なポイントであるということを確認する。</p> <p>・学んだことを復唱することによってポイントを押さえる。</p>
		<p>・本日のめあてに対する自分自身の学びについて振り返るよう促す。</p>

10の視点⑥
「説得力」というねらいをはっきりさせて、お互いの文章を読み合い意見を出し合うことで新たな気付きが生まれます。話すのが苦手な生徒には、付箋に要点を短く書いたり、それを使って思考を整理したりする活動が有効です。

10の視点⑧
授業のゴールイメージをもち、めあてに正対したまとめを指導案や板書に言語化して提示することで、指導事項が明確になります。また、生徒一人一人がそれを書いたり、ペアで話したりして、全員がアウトプットする機会を設定することで、確実な定着を図ることができます。ただし、教師が一方的にまとめを押し付けるのではなく、生徒から引き出せるような発問・指示が必要です。